



# 南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区の目標

ゆいまーるの心で  
あらゆる絆を深めよう！

〒902-0067 那覇市安里3-7-2  
カトリック那覇教区本部  
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474  
発行人 W.F.バートン司教 1部40円  
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2021年10月1日（毎月1日発行） カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第755号（10月号）

## カプチン会士 ラサール・パーソンズ神父 帰天



ウェイン司教主式の葬儀ミサ（2021年9月9日）



説教は盟友のペトロ神父



カプチンの兄弟たちに運ばれて出棺



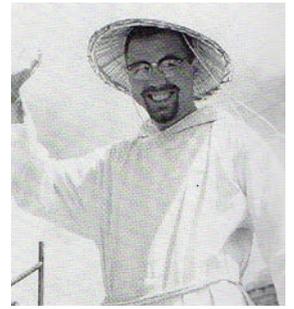
お別れする修道女たち



1958年9月に沖縄へやって来て、63年の長きに渡る宣教活動、沢山の人々と関わりを繋いできた偉大な宣教師が9月4日に帰天された。沖縄に骨を埋めることを是とし、「ぐすーよう」の沖縄語で始まる挨拶で多くの人々に愛されてきたラサール神父。戦後の沖縄の復興期に、福音宣教と共に、幼少の者たちや若者たちの教育環境を整えることに力を注ぎ、復興が落ち着いてからは、2度と沖縄のような悲惨な戦争を起こしてはならないと、平和活動にも目を向け、6.23平和巡礼を30年余り続けてこられた。また「沖縄生と死を見つめる会」の代表として、「諸宗教者の集い」のカトリックの代表として、多方面に及ぶ関わりを繋いでこられた。昨今のコロナ禍の影響もあり、司祭修道者のみで葬儀ミサを捧げてお別れすることとなった。神様の豊かな恵みが神父様の上に注がれるようお祈りいたしましょう。

追悼

ラサール・パーソンズ神父、  
沢山の出会いと関わりを繋いだ宣教師



"ハイサイ グスーヨー"で  
おなじみ(1965年)



1960年頃のフランシスコ・カプチン修道会の宣教師たち(後列右から3人目がラサール神父)



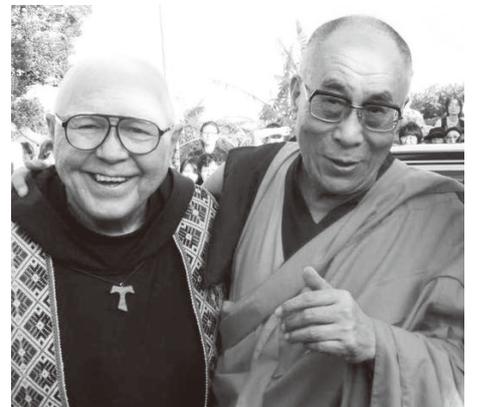
首里カトリック幼稚園園長時代(1968年)



平和巡礼(1996年)



平和巡礼 魂魄の塔にて(2003年)



平和のため共に歩むダライ・ラマ師と  
(2009年11月)



守礼の家(学生寮)お別れの集い(2001年3月)

ラサール・パーソンズ神父略歴

1930年11月17日

米国NY州ヤンカーズ市生まれ

1950年9月16日 着衣(修道会入会)

1951年9月17日 初誓願

1954年9月17日 終生誓願

1957年6月22日 司祭叙階

1958年9月16日 来沖

2021年9月4日 帰天(享年91歳)



信徒宅での新年会(1998年1月)



ラサール神父は  
母国の生活より  
宣教師の道を選んだ

ボスコ・ティン神父  
名護教会 主任司祭



福音書に、「両手、両足、両方の目がそろったまま地獄に投げ込まれるよりは、片方の手、足、目になっても命にあずかる方がよい」と書かれています（マルコ九・43、45、47）。

これは比べることと選ぶことですが、切ることと捨てることではないのです。そういうわけで、もし、両手、両足、両目がそろったまま、地獄に投げ込まれることと、片方の手、片方の足、片方の目になっても命にあずかることは、どちらがいいでしょうか、選びましょう、という意味です。  
私たちは、どちらを選びま

しょうか。まず、「カトリック教会のカテキズム」から、地獄と天国を考えてみましょう。

「人は死んだら、すぐ人性におけるキリストとのかかわり合いについての私審判の結果に基づき、その不滅の靈魂において永遠の報いを受けます。それ

は、清めを経た上で天の至福に入るか、あるいは、直接に天の至福に入るか、あるいは、直ちに永遠の苦しみ（罰）を受けるかの、いずれかです（カテキズム、一〇二二）。天国とは「至聖三位一体とともにあるこの完全ないのち、また、至聖三位、おとめマリヤ、諸天使、諸聖人とこのいのちの交わりが、『天国』と呼ばれる。天国とは、人間の究極目的、その内奥にある願望の実現であり、この上ない至福の状態なのです」（カテキズム、一〇二四）。聖書は天国について、「いのち」、「光」、「平和」、「婚礼のうたげ」、「王国のぶどう酒」、「父の家」、「天上のエルサレム」、「楽園」などの表象で語っています。聖パウロはその天国について言っています。天国とは、「目が見もせず、耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神はご自分を愛する者たちに準備された」（1コリント二・9）と。というのは、天国はもつともつと素晴らしい所という意味です。地獄とは「自ら神と至福者たちとの交わりから決定的に離れ去ったこの状態を、『地獄』ということばで表現するのです」（カテキズム、一〇三四）。地獄の象徴は「消えることのない火」、「蛆が尽きることも、火が消えることもない」、「泣きわめいて歯ぎしりする」、「永遠の火」、「地獄の苦し

み」、つまり、「永遠の罰を受ける場」の意味です。というの地獄はもつともつと大変な所という意味です。  
「人間は、ただ神のうちににおいて、自分が造られた目的であり願望の的であるいのちと幸せとを得ることができのですが、地獄の苦しみの中心となるのは、この神との決別の状態が永遠に続くということなのです」（カテキズム一〇三五）。

「神はだれ一人、地獄に予定してはおられません」（カテキズム一〇三七）。私たちは自分の意志で決めるのです。あなたは天国か地獄、どちらを選びますか。天国を選ぶなら、必ず、少なくとも、犠牲や困難を受けなければなりません。地上で、犠牲や困難を受けても、天上に入ることができます。「両手、両足、両目がそろったまま、地獄に投げ込まれるよりは、片方の手、片方の足、片方の目になっても天国に入る方がよい」でしょう。

さて、二〇二一年九月四日に、ラサール・パーソンズ神父は、聖フランシスコ修道院（小禄）において、帰天されました。もちろん、ラサール神父は天国を選びました。自分だけではなく、すべての人を天国に入れるために、生涯を捧げて宣教師として

福音をのべ伝えました。  
一九五八年九月から、二〇二一年九月まで、「六十三年の長きにわたり、琉球列島における宣教と人々への奉仕に徹してお働きになった」のです。ラサール神父としては、豊かな母国に生きるより、どんな犠牲や困難があっても、宣教のために一生を捧げる方がよいと判断されたと思います。

私は、ラサール神父に会ったときには、いつでも、どこでも、「はいさい」だけで挨拶しました。これだけでお互いの気持ちが通じました。この言葉で、ラサール神父を思い、偲んでいます。  
今年二月、私は、二つのとうがんの苗を植えました。六ヶ月以上世話して、十個の実を結びました。ラサール神父は六十年以上、福音の種を蒔き続け、たくさんのお霊的な実を結んだことでしょう。

親愛なる兄弟の皆さん、ラサール神父は「六十三年の長きに亘り沖繩のために働きになり、人生のすべてを愛する沖繩のために捧げられ、沖繩におけるキリスト教宣教の礎の一人となられました」。この素晴らしい修道司祭・宣教師を私たちに遣わしてください。神に感謝し、永遠の安息のために祈りましょう。そして、私たちはラサール神父の使命を引き継ぎ、福音をのべ伝えましょう。

## 2021年9月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2021年9月7日(火) 10:00～12:30、緊急事態宣言中につき、4回目の ZOOM 会議。

### 1. 報告及び連絡事項：始めの祈りはウェイン司教、司会はデニス神父が担当。はじめに帰天されたラサール神父のため、司教が先唱して祈りが捧げられた。

- ・前回(8月会議)の議事録の確認を新田が行い承認を得た。
- ・臨時のリモート会議(8/14)は緊急事態宣言延長を受けて8月中の公開ミサの延長が決まったことが津波古事務局長から報告された。
- ・ラサール神父の帰天について、カプチン会地区長のマキシム神父より経過報告が行われた。施設や病院では面会も叶わないので、主治医の指導の下に、ラサール神父を小祿の修道院に連れ帰り、面会者も受け入れて、お別れの時間を持つことができたことや、臨終の前にラサール神父の部屋で、ウェイン司教も一緒にロザリオの祈りを唱えることができたこと等が報告された。
- ・ラサール神父の帰天を受けて、9月8日に通夜、9日に葬儀ミサが司祭修道者のみで執り行われること、それまでの間、時間を設けて信徒や一般の方々がお別れできる機会を設けること等、火葬許可証の申請等を担当した新田が予定の報告を行った。
- ・ウェイン司教からの提案で、緊急事態宣言中であるので、司祭修道者のみでラサール神父の通夜葬儀を行うのは致し方ないことではあるが、コロナが収束に向かい、緊急事態宣言も解除される方向に向かうのであれば、教区主催の「ラサール神父を偲ぶ会」を持ちたいこと、沖縄の人々に多大な影響を与えたラサール神父の足跡に鑑み、新聞等で一般の方々にも案内して、安里教会を会場に行きたいという要望が伝えられ、全員一致で協力していくことが確認された。尚、この追悼集会の実施に際しては、会場となる安里教会の協力が必要となるため、その主任司祭のフランシス神父や教区の津波古事務局長、又相談役として押川名誉司教が携わっていくことが決められ、10月3日(日)を第一候補とする意向であることがウェイン司教から伝えられた。
- ・ラサール神父の葬儀はリモート会議の翌日が通夜、葬儀ミサがその翌日であるので、ラサール神父に関わりの深かった沖縄宗教者の会や他の団体への連絡漏れがないかの確認が行われた。

### 2. 審議事項

- ・緊急事態宣言中の教会活動について、ウェイン司教から報告が行われた。前回の会議で9月12日までのミサについて非公開と決定したことは変更せず、13日以降は公開ミサを再開する方針であることが伝えられた。ただし、感染力を増した変異株流行により、これまで以上に徹底した感染対策が求められており、各小教区で責任をもって、細心の注意をもって再開するよう指示がなされた。
- ・「南の光明」について、編集に当る人員不足もあり、様々な課題が山積している。大変ユニークで大切な媒体であるので、編集委員の拡大や、紙面構成の工夫、小教区ニュースを拡充するなど、皆で協力していくよう対策を講じていくことが提言された。特に人的協力者を募ってくれるよう、主任司祭たちへの協力が要請された。
- ・マーシーさんから司教日程について調整が行われた。9月の公式訪問について、26日は読谷教会の司教訪問。10月3日が小祿教会訪問。24日石垣教会、31日宮古教会訪問予定が確認された。11月は日程に余裕があり、コロナ禍で訪問が中止となった教会への検討が呼びかけられた。
- ・シノドス(世界司教代表者会議)開催が教皇による開会宣言の後、10月17日に各地方教会(教区)でも開会宣言を行ない、各教区でシノドス前会議が開始されるよう要請されている。本教区では、教区司祭団が実行委員会となってその中で代表者を選び、来月17日の教区シノドス開会宣言とその後(2022年4月までに)の教区でなすべき会議等に向けて取組むよう、ウェイン司教から要請がなされ、了承された。またこの件については、司祭助祭拡大会議で引き続き検討し、教区シノドスの内容についても継続討議とすることが伝えられた。
- ・「ラサール神父を偲ぶ会」は10月3日(日)午後2時から追悼式、午後2時30分から一般焼香を行う方向で準備していくことが確認された。
- ・2022年の待降節第一主日から実施される改定されたミサ典礼については、今後出される司教協議会からの指示に従って実施に向けた準備がなされることが伝達された。
- ・次回司祭助祭拡大会議は2021年10月5日(火)午前10時から12時、教区センターで行う予定であることが報告された。

### 四世代五十人受洗

緊急事態宣言中で非公開だったミサが、司教様のご指導、主任神父様のご指示で、九月十九日第二五主日から公開されることになりました。

私たち石垣教会では、この日のミサを「敬老の日のミサ」とし、七十四歳以上の方々が祈りと祝福を頂き、長寿を祝ってまいりました。私の夫も今年からお祝い名簿に入りました。

毎年この日は「民謡ミサ」とし、民謡聖歌を、琴、三線伴奏で唱和しておりましたが、今年中止し、民謡聖歌と名簿カードと記念品を祝別して、神父様が席にお配りくださいました。持ち帰り、家庭祭壇にお飾りして感謝と報告のお祈りしました。

歌詞カードには五十一年前、父石垣信著が作詞した民謡聖歌がありました。行事の中止を、コロナ禍ととらえず、父と母から始まった石垣ファミリーと教会との絆を、先輩高齢者への敬意をもってふりかえる事が大切だと思えました。石垣教会創設当時の初代主任司祭オーバン神父様から洗礼を受けた絆は、今日に深く

続いて「恩愛のほだし」として今も広くかたく結ばれています。四名の子どもの洗礼は、孫、ひ孫、四世代におよび、現在、四十九名が洗礼を受けています。(五十人のひ孫二歳児がコロナ禍で延期され、現在受洗待機中です)。素晴らしいお恵みを頂いております。

そこには、ファミリーの原点、父石垣信著の信仰の姿勢が要としてであったと

## たて軸よこ軸 愛ぬ心育ていおうり

石垣教会 ルチア 石垣 淑子

思います。

父は、石垣生まれ、台湾で写真の技術を取得し、「南星写真館」を創業しました。終戦後、市役所通りに開業しました。当時写真館は時代の先端をゆく仕事でした。

教会創設時代から撮影致しておりました。最近地域の新聞に、第一回東京五輪の石垣での聖火ランナーの撮影で、当時一六ミリの撮影機材で撮り、上映会をした事や地域に根ざした活動がDVD化され、市立図書館に保存されていること等、

人物紹介を加えて報道されました。教会との出会いは、母テレジア英がオーバン神父様から洗礼を受けたことです。

父も神父様と話す内に、一九五三年、霊名ヨゼフをいたたき受洗致しました。石垣家の教会活動が始まりました。積極的に参加しています。

ペトロ神父様は、信徒会の組織化に力を入れられ、創立十周年を前に、第一回

信徒総会が開かれました。一九七〇年、第六

回信徒会長、山城神父様のときは典礼部、

一九八一年、ルイス神父様の時にも信徒会長を務めました。私はル

イス神父様に、長男信和との結婚式を司式して頂き、復活徹夜祭に、

陣痛の痛みの中で、代母の川平京子さんに心配していただきながら、受洗いたしました。復活祭に生まれた長男、一番目の孫におじいさんがミカエルの霊名を選び、以後、どの孫にも父が霊名をつけていました。

稲国神父様の時には、布教部ときわ会の活動。これは、二〇〇二年、金城神父様の時までつづけました。兄弟姉妹も教会の中で何らかの役割をとり、信仰共同体の中で育ちました

三世代の家庭の信仰生活は、いつもそ

の中心に、柱として父がいました。お祈りのときも神父様のように、熱心に祈っておりました。子ども達は、そんな姿をみて成長していったのです。私も女性の会や宣教活動の役割をもたせて頂くようになりしました。

父が作った民謡聖歌は、日頃、家庭生活で論されていた言葉が歌詞になったのだと思います。

\*いつも自分で感じたことは本心で語りなさい。

\*すぐに間違いを判断しないでありのままの姿をみとめあおう。

\*人の信頼を裏切らないように。

\*すぐ人を説得したり押し付けたりしない。全ては神の愛の中にある。

父のことは、今も耳に残っています。

最後に父の作った民謡聖歌を紹介します。

#### 救い主節

(曲：鶯ぬ鳥節 作：石垣信著)

①天ぬ声 拝みようり

神ぬ御教 守りようり

②キリストぬ 生まれおうり

神ぬ子ぬ 降れおうり

③愛ぬ心 育ていおうり

神ぬ道 広みようり

救い主ように 救い主

救い主ように 救い主

救い主ように 救い主

## CORONA AND MY FAITH



**By: Teresita Uehara Yomitan Catholic Church**

Corona sounds like a feminine gender and a woman who wants the world to suffer but, we have Faith to lean on, during these trials.

Remember for every success of a man, there is a woman backing him up but there's also a family that suffer because of the foolishness of a woman and that is Corona; making known to the whole world in the negative way. However, for us Catholic we have a woman where we can lean on 100% whatever help we ask from her without any interest and that is mother Mary, our advocate, the mother of JESUS.

Every day, I keep asking Jesus and Mother Mary, to please not to leave me and all my love ones even in an inch or a second, knowing how weak is my resistance for all the trials that I experienced but because of my faith, my pleas was heard. I overcome all the trials in my life as if nothing happened.

Pray without ceasing, even when I wash the dishes or doing some works. I keep praying and talking to Jesus, not only the things I need but most of all the gratitude of the graces He has given me and to my love ones.

For the world crisis we have today, keep on praying not for yourself alone but also for others, for the whole world; be scientific, follow what the government is telling us, and observe cleanliness wherever you go or whatever you do.

With the pandemic crisis and because of my age, I have been missing many Masses but that did not hinder me from continuously praying at home to trust, to hope and to love. Let us give one another comfort and encouragement in facing all the hardships, difficulties of the present and of the days ahead.

In total evaluation of our faith, it should balance with our behavior or life practices. Trust Jesus...He is the true master of our life!

## バチカンと日本100年プロジェクト

日本の文化振興に寄与するための事業を手掛ける公益財団法人角川文化振興財団（理事長：角川歴彦）は、日本とバチカンの交流の歴史を明らかにしようという「バチカンと日本100年プロジェクト」において、2021年9月22日（水）よりクラウドファンディングによる文化交流パートナーの支援募集をスタートいたします（募集締切は2022年1月19日まで）。

「日本とバチカンには、長く豊かな歴史があります。外交が結ばれたのは1942年、日本はバチカンに大使館を開設した最初のアジアの国です。『バチカンと日本100年プロジェクト』は、角川文化振興財団が朝日新聞社と共同で立ち上げたもので、バチカンに保存されている膨大な歴史的遺産のアーカイブを研究・出版するという大変重要なプロジェクトです。学者や専門家、またすべての歴史愛好家に役立つ資料を提供する、これは日本とバチカンの間の文化交流をますます深めることになるでしょう。東京と長崎でのシンポジウムの開催、そして「La Civiltà Cattolica」日本版やその他の出版物の発行、さらに『キリストの埋葬』の美術展など、歴史と文化と美術という多角的な視点からその枠組みが整えられています。このような重要なプロジェクトを支えるクラウドファンディングキャンペーンは、日本の奥深い歴史や美術を理解するすべての人たちに、情熱あふれる応援をいただくと、私は確信しております。芸術や美術がこんにちに提供している役割は明らかであり、こういった重要な意味を持つ歴史的文化遗产を理解し、知識を持つことは、すべての市民の権利なのです。」

駐日教皇大使

レオ・ボッカルディ大司教

## カリタスジャパン全国セミナーのご案内

### 「コロナ禍と私たちー叫びの中からともに見出す希望ー」

カリタスジャパンでは、オンライン形式で全国セミナーを実施します。コロナ禍における叫びに耳を傾け、現状を分かち合い、私たちに求められているものは何かを、ともに考えていく機会としていきたいと思っております。第1部では、那覇教区からの発表もありますので、ぜひ、ご参加下さい。第1部、第2部を通して、入退室自由です。皆様のご参加をお待ちしております。

11月3日（水・休）10：00～16：00 オンライン（ZOOM）開催

第1部報告会「コロナ禍から見えてきた〈叫び〉」10：00～12：30

カリタスジャパン教区担当者等を通して、各管区からの発表

第2部討論会「〈叫び〉の中からともに見出す希望」13：30～16：00



パネリスト：成井大介司教・飯島裕子さん・小林未希さん・ビスカルド篤子さん・吉羽弘明さん

★参加申込方法：以下QRコードまたは<https://forms.gle/ZiCWyExv3rA9hPQv8>よりお申込み下さい。または件名を【セミナー申込】としてinfo@caritas.jp宛にE-mailを送付ください。折り返し、申込URLをお送りします。

★詳細等連絡先：E-mail：info@caritas.jp

電話：03-5632-4439 カリタスジャパン事務局



### 訃報

◆宮古島平良教会	ヨゼフ	天久 宏 様	2021年8月23日帰天	享年81歳
◆小祿教会	マリア ドロシーサ	伊敷 ヤエ子 様	2021年9月14日帰天	享年82歳
◆与那原教会	ヨハネ・ボスコ	波照間 晴夫 様	2021年9月28日帰天	享年81歳

## ラサール神父を偲ぶ会 ご案内

先日訃報にてお知らせしました通り、カプチン・フランシスコ修道会士ラサール・パーソンズ神父は、聖フランシスコ修道院(小緑)において、9月4日に天寿を全うし、帰天されました(享年91歳)。

故人は、63年の長きに亘り沖縄の為に働きになり、人生のすべてを愛する沖縄に捧げられ、沖縄におけるキリスト教宣教の礎の一人となりました。

この素晴らしい修道司祭である宣教師を私たちに遣わして下さった神に感謝を捧げるため、また故人への哀悼の意を表し、永遠の憩いを祈り求めるため、共に追悼とお別れの式をお捧げいたしましょう。

なお、昨今のコロナ禍に鑑み、簡素化のため追悼ミサは各小教区にて捧げ、追悼・お別れの会を下記の通り、執り行うことといたしました。また当日は、感染防止のためいろいろとご不便、ご迷惑をおかけすることと思いますが、感染防止対策へのご理解とご協力を謹んでお願いいたします。

記

### お別れ式

日 時: 2021年10月3日(日)

開式の祈り・聖書朗読・説教・告別の祈り・献香

午後2時～ 2時30分

一般焼香・一般献花

午後2時30分～ 4時

場 所: 那覇市安里 3-7-2 カトリック安里教会



カトリック那覇教区 ウェイン・フランシス・バートン司教



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーションクララ

TEL&FAX: 098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)

・営業時間 8:30～17:30

・営業日 24時間365日(緊急対応含む)



Book カトリック文化センターからお知らせ

2022年カレンダー、手帳の店頭販売開始

いつも文化センターをご利用いただき有難うございます。今年はコロナ禍の影響もあり、バザー等の出張販売はできなくなりました。それに伴い今年は例年より早めに 2022 年カレンダーや手帳等の店頭販売をスタートいたします。是非ご利用下さい。

●キリスト教関係の書籍、宗教用品等のご用命は、「カトリック文化センター」を通してご注文下さるようお願いしております。  
〒900-0005 那覇市天久 1-8-7 問合せ: 電話 098-868-4649 (崎山・新川)



葬祭の  
「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里烏掘町4-57-3

TEL&FAX: 098-885-8205

<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>

E-mail: yasurai@nirai.ne.jp

24時間  
受付

24時間  
受付

てんごく  
☎098-853-1059

ひが たかしげ  
(実務担当) 比嘉 高茂



～ご遺族の心をもって奉仕する～  
そうてんしゃ

葬 典 社

\*創業30数余年・・・。

\*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。

\*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。